

2018 年度 「東アジア社会福祉フォーラム」 報告

中国社会科学会社会福祉研究専門委員会「東アジア社会福祉フォーラム」での 自由研究発表について（報告）

同志社大学大学院 楊慧敏

中国社会科学会社会福祉研究専門委員会「東アジア社会福祉フォーラム」が、2018年10月12-14日の三日間、中国の成都市にて開催された。大会のテーマは「発展を分かち合う理念の下における社会福祉制度のイノベーション」であった。また、日本と韓国から招待された発表者は、日本人研究者と韓国社会福祉学会の代表者および報告者を含めて計6名であった。

報告者は、中国人として日本の高齢者福祉、とりわけ介護保険制度を勉強し、日中比較を視野に入れて研究をしてきた。現在、中国では介護保険制度のあり方を模索している。そのため、今回のフォーラムでは、「中国における介護サービスの供給構造-日本からの示唆-」を題とする発表を行った。発表者の持ち時間は、発表15分、質疑応答5分の計20分であった。そして、中国社会科学会社会福祉研究専門委員会は、事前に発表者のテーマから7つのグループを分け、各グループにコメンテーターを設置した。

中国では介護保険制度を試験的に導入・実施し、それに関する先行研究が蓄積されている。そのため、報告者は中国の介護保険制度をめぐる議論が多く、かつ活発になると期待していた。しかし、高齢者施設と在宅介護に関する議論があるものの、介護保険制度を取り上げた発表がなかった。

一方、報告者はフォーラムの参加を通して異なる分野の先生、院生の方々と交流でき、自分の研究について貴重なコメントをいただき、とても有意義かつ充実した三日間を過ごすことができた。

今回、報告者に母国で発表する機会を与えてくださった日本社会福祉学会、貴重なコメントをくださった中国の研究者の方々および支えてくださった方々に、心より感謝したい。今後、自分の研究に取り組んでいくとともに国際学術交流を深めていきたいと考えている。